

難波地区タウンミーティング(要約)

平成26年7月6日(日曜日)

【市長】 皆様こんにちは。今日は日曜日の午後でございます。皆さんもいろいろとご予定があったのではないかと思います。また、雨が降ってお足元の悪い中、このようにたくさんの方が参加していただきまして、本当にありがとうございます。今回のタウンミーティングの開催にあたりましては、難波地区の区長会の会長をはじめ、役員の皆さんのご協力をいただきました。ありがとうございます。このタウンミーティングですけれども、市役所で待てるほうが楽です。でも果たしてそれでいいんでしょうかということで、私が市長に就任させていただいてから、このタウンミーティングを始めさせていただきました。現在の松山市は、旧松山市、旧北条市、旧中島町合わせて41地区ございます。その地区ごとにやはりお困りの点もあると思いますし、課題もあると思います。逆に魅力もあると思います。そういったものを教えていただいて、できることから、できるだけ早く市政に反映しようということでこのタウンミーティングを始めました。全部41地区を回らせていただいて、例えばパフォーマンスとかガス抜きでやっていたのなら1巡で終わっていたと思うんですが、私は本気です。2巡目に今、入らせていただいております。これもまた、皆さんからお困りの点を教えてもらって、そしてすぐさまできることから早く市政に反映していこうという思いの表れでございます。1回目の難波地区のタウンミーティングでは、国指定の天然記念物エヒメアヤメを地元の方々が大事に守り育てていらっしゃることを教えていただきました。このタウンミーティングの特徴ですけれども、聞きっぱなしにしない、やりっぱなしにしないのが松山市のタウンミーティングの特徴でございます。今日皆さんからいただいたご意見に対して、この場でお答えできることはできる限りお答えをしてみたいと思いますけれども、例えば国と絡む案件、県と絡む案件、また財政的な問題があるものについては、いい加減な返事はできませんから、いったん持ち帰らせていただいて、そして1カ月を目途に必ず返事をお返しするのが、松山市版のタウンミーティングの特徴でございます。やりっぱなしにしない、聞きっぱなしにしないのが松山市版のタウンミーティングの特徴でございます。今日は可愛い小学生の皆さんたちも参加してくれていますけれども、90分間用意しております。肩ひじ張って緊張しているとやっぱりしんどくなりますので、あまり緊張なさらずに、ざっくばらんな意見交換ができればと思います。今日はどうぞよろしく願います。

【男性】 地域の活性化ということで、この難波地区を見ましたらネームバリューから言ってもエヒメアヤメとイヨスマレが南限の自生ということで国指定の天然記念物になっております。しかし、残念ながらエヒメアヤメは絶滅危惧種Ⅱ類、イヨスマレは同じくⅠ類で地元の保存会の方々は相当な努力をしていただいているんですけど、だんだんと減少しております。自生の天然記念物ですからかなり難しいとは思いますが、地域を分けて、この難波は県の農林水産研究所もあることですから、固有種の固定をしながら増殖をして、山の下は自生の分はほとんどありませんので、そういうところに増やして、今はちらほらしかほかの地区の方は来ていないんですけど、マイクロバスで見に来ていただけるぐらいにしたいと。それと、減る要因は株が増えたら知らない間に盗掘されているので、できましたら監視カメラ等の設置も検討していただきたい。これは地域では増やすことは難しいので天然記念物ではないですけど、その地域を固定して増殖したいので、またご協力、検討のほどお願いいたします。

【生涯学習政策課】 ご質問ありがとうございます。教育委員会生涯学習政策課の津田と申します。エヒメアヤメの件でございますけれども、保存会の皆様のおかげで何とか現状維持していることを私どもも承知しております。今、お話にもありましたけれども、自然にそこに花が咲いていることがひとつの国の指定になっているところもございまして、関係部局とも話をしたんですけども、どこかに株を持って行って増殖させる、そしてそれを植え直すのは非常に厳しいかなと。ただし、今言われた指定云々ではなく、このエヒメアヤメを代々これから育てていこうという思いはまた別にあるかと思っておりますので、そのあたりをまた研究させていただきま。基本的にはそこに自然に咲いているところに価値があるというところでレッドデータブックに掲載し、わかりやすく言いますと絶滅の恐れがあると私ども松山市も認めておる生物でございますので、できる限りの対応をしたいと思っております。また監視カメラの設置は、どのようなところにつけるのがいいのか、またはどういった形でそれを監視していくのかと、監視カメラも映像を見る必要がありますので、つけておくだけではなかなか厳しいと思っておりますから研究させていただければと思います。ありがとうございました。

【男性】 山口のほうではかなり増やして開花のときにバスで見にくる状況があるんです。ですから何も天然記念物を増やすのじゃなくて、ある区画のところに同じ花を増やすと。

【生涯学習政策課長】 はい、わかりました。

【市長】 前回のタウンミーティングのときに、タウンミーティングの前

だったか後だったかは失念したんですが、平成23年または24年に要望書をいただいて、対応したことがありましたよね。地区の皆様がいらっしゃるのでもそれをお伝えしたらどうでしょうか。

【生涯学習政策課】 はい、わかりました。確かに前回市長が申しましたとおり、ご要望はいただきました。周辺の整備ということで柵とかロープを張ることについては松山市で保存会の皆様に原材料等をお渡しして、設置していただきました。また松山市では文化財の保護審議会に専門員の方がいるんですけども、その中に樹木のお医者さんみたいな形の先生もいらっしゃいます。その結果、現在元気に育っているというご意見はいただきました。周辺には簡易トイレとか進入道路の拡張などについても今後検討していく形にしております。ただ先ほどおっしゃられたとおり、自然に咲いているのを度外視と言いますか、それは関係ないという形で別に1つの集落として、それをどこかひとつの一带に育てていこうという思いは伝えておきますので、どのような方法があるかは研究させていただければと思います。ありがとうございます。

【男性】 娘からいろいろと要望がございまして、娘は25歳で今1歳の子どもと3歳の子どもを育てております。今、小学生が52名、私が昭和28年の世代でございまして1学年54名おりました。我々の1学年のほうが多かったんですね。活性化という場合はひとえに少子高齢化という言葉でくくられるように、下難波あるいは難波地区だけの話ではございませぬけれども、難波で子どもを育てると本当にいいところだなと言われる地域にさせていただきたいと思うし、我々もそのことに関しては尽力をしたいと常日頃考える次第でありますけれども、娘にどんなことを改良してもらったら難波で子どもが育てやすいと思えるかと聞いたら、まずお金だと言っておりました。3歳から何で減らされるのと言っておりましたので、そういうことも含めてちょっと試してみます。今、松山の保健所に行って集団健診を受けているそうですが、何で北条にも保健所があるのに活用しないのか、子ども連れていくのが大変なことだと。だからぜひ使える施設を利用してサポートしてほしいと娘が言うておりました。それと公共トイレの場合は子どもトイレがない。エミフル松前に子どもトイレがありますけれども公共の施設にない。これは別にここにという意味ではございませぬけれども、文化の森の公園でたくさん子どもたちや幼児が遊んでいる。そこでトイレがないのはいかにまずいことだなと私も思います。ほかにも色んなこと言うておりました。昨今、都議会や国会でも男の無知と言うんでしょうか、理解のなさによるセクハラ問題がありますが、子育てに対する地域の配慮、理解をお互いに行政からも地域からも進めて、お母さん方

が子どもが泣いていても「かまんかまん、お泣きよ、元気な子じゃがな」と言える地域、そして「ああ、もう」と舌打ちする地域になってほしくないと思う次第でございます。

【市長】 私もそうなのかと思いましたが、難波地区の方は集団健診は北条の保健センターではできないということですか。

【保健福祉政策課長】 失礼します。保健福祉政策課の西市と申します。どうもご質問ありがとうございます。集団健診ですが1歳半健診と3歳健診を松山市のお子様の健診という形で位置づけさせていただいております。その中で乳幼児については、お子様ができたときに保健師がご自宅に訪問をして、色んなお子様の成長の悩みとかお母さんの悩みを伺って色んなサポートをするようにしております。今ご質問のありました、北条の保健所で健診が行われてないというお声を聞きましたので、今後こういったところでそういった要望があるかを十分踏まえて、地域の方に密接に対応していけるように努力していきたいと思っておりますので、ご理解をいただけたらと思います。

【男性】 今の件で子育て支援を継続していただきたいと思っているところがあるんです。今、3歳の子どもは訪問してしばらくしたらもう来なくなったのですが、継続はしないんですよ。その子のアフターとか、この子はどうなっているか、「お母さん、最近あの子問題なくなりましたか」と。娘はこの制度を非常に感謝しておりまして、授乳のときの相談をしましたら、ものすごくよく答えていただいて、すごく助かったと言っておるんですね。だからこういう施策は最近どうですかと追跡、継続をぜひ考えていただけたらなど。それともう1つ、松山から見ると難波地区から場所を見るのと視点がまるで違うんです。松山の保健所は中央消防署の裏でしょ。あそこは北条の人間から見たらものすごく遠い。松山の人から見たらものすごく近い。あの精神的距離感を含めてまるで違うということをぜひ行政の方には理解をしていただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

【保健福祉政策課】 我々もそういった地域のお声を今後子育てのお母様にも安心していただけるように検討して、できる範囲支援をしてまいりたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。どうもありがとうございます。

【市長】 文化の森のところに北条の保健センターがありますよね。あそこがどれだけ活用されているのかは、私としてもやはり公の施設がある以上は稼働率を考えます。ですので、北条の保健センターが有効に活用されているのか、もう1度洗い出させていただきたいと思っております。子どもトイ

レのお話がありました、どうでしょうか。

【市民部長】 市民部長の片山と申します。よろしくお願ひいたします。公共施設に子ども用のトイレがないことですが、これはそれぞれの施設をつくる担当の部署で考えると思うんです。バリアフリーとか色んな部分があると思うんですけど、やはりスペースの問題とかあると思うんです。公共施設を担当する公共建築課に各セクションが相談して、例えばこういう施設だったらこういう形にしましょうとか、いろいろ担当課の意向を聞きながら施設をつくるんですけども、そういうときに基本的な部分もあると思うんです。トイレをこれくらいにしましょうとか、これくらいの障がい者用のトイレがいるとか、そういうこともあると思いますので、1度持ち帰らせていただいてまた返事をさせていただこうかと思ひます。

【男性】 文化の森は全く暗くて、野球場のすぐ下のデイサービスの平屋の横にあるところは、ものすごく暗くて感じが悪い。そもそも設計思想で、つくる前に幼児のことを考えていない。この施設はどういう世代間で利用されていくのかという発想がないから、設計思想の問題だと思ひます。行ってみたらよくわかります。

【市民部長】 1度持ち帰らせていただくということで。

【市長】 文化の森のトイレは私も子どもが小学生のときにスポーツ少年団の軟式野球で使わせていただきました。改めてそうだなと感じますので、早速帰りまして照度、明かりの度合いはどうかを検証させていただいたらと思ひます。ちょっと私から補足を。松山市にとって、子ども子育ては大変大事な分野でございます。皆さんご存知のように来年の4月から子ども子育て関連3法といいまして、法律で国ですから日本全体で子ども子育て関連3法がスタートするのですが、よく知られているのは幼稚園と保育園を一緒にしましょうという幼保一元化が本格的にスタートしますけれども、それを待たずして松山市役所では今年の4月から保育園と幼稚園の窓口を一緒にし、保育・幼稚園課をスタートしています。そして全庁をあげて子育てをサポートしていきましょと、これまでの課単位の対応から子ども子育て担当部長をつくりまして、全庁的にやっていくことにスタートしております。松山市にとって子ども子育て大事な部門ですので、その辺はしっかりと目を配りながら進めていきたいと思ひています。ご意見ありがとうございます。ここでお子さんも来られているので、さすがに90分間の意見交換はしんどいかなと思ひましたので、農業をされている方が多い地域では「市長、これからも農家をサポートしてください。」というご意見をよくいただきます。この難波でも生産されております「せとか」は難波でも多いのではないかと思ひますが、松山農林水産物ブランド

は8種類を認定していきまして、そのうち3種類がかんきつです。12月の「紅まどんな」、1月の「せとか」、5月ぐらいに収穫できます「カラマンダリン」の3つを松山農林水産物ブランドに認定をしております。収穫をするときには必ず現場に足を運ばせていただいて、農家の方にお話を聞かせていただいて、2つの「く」と言っていますけれども、どういう苦労があるのか、どういう工夫があるのかを教えていただいて、東京の大田市場に行っております。その模様を見ていただいたらと思います。大体3分ぐらいのPRする時間を舞台の上でもらいまして、その映像を流させてもらったらと思います。こういうセールスを何故しに行くのかというと、大田市場は日本で一番果物や野菜の取り扱いが多いところです。そこで生産者の皆さんの苦労と工夫を知ってもらおうと、納得して高い値段をつけてもらえるんですね。高い値段でそのシーズンを引っ張ることができます。逆に理解されず悪い値段がついてしまうと、その1シーズンは悪い値段で引っ張られてしまうんです。ですので、シーズンの最初に「せとか」「紅まどんな」「カラマンダリン」は大田市場に行ってセールスをさせていただいております。その模様を3分ちょっとにまとめておりますので、このようなことを松山市長がしているんだというのを見ていただいたらと思います。

(松山市動画チャンネル「せとか」トップセールス 視聴)

「紅まどんな」「せとか」「カラマンダリン」ほかに松山農林水産物ブランドといいますと「松山長なす」とか「松山一寸そらまめ」、海のものでいいますと「瀬戸内の銀鱈煮干し」とか「ぼっちゃん島あわび」、また「伊台・五明のこうげんぶどう」が松山農林水産物ブランドに認定されています。私自身、皆様ご存知のように北条の河野地区に実家があり、自分の家も田んぼ・畑・みかんがありますけれども、小さいころから農業の苦労は自分が体験がありますので知っているつもりです。農業の方々が少しでも希望が見える、明るい光が見えるようにしたいと思いますので、できるだけサポートをしたいということで、持ち味であるセールスを重ねさせていただいております。実は関東に行きますと、買ってもらえる量が全然違います。百貨店のグループで1番取扱量が多いのは三越伊勢丹グループさんです。どこの百貨店で取り扱っていただいてもありがたいんですけども、三越伊勢丹グループさんでいいますと、平成22年は松山の「紅まどんな」は1店舗しか扱いがなかったんです。それを三越伊勢丹グループさんをお願いをして1店舗だったのが次の年には3店舗になって次の年には7店舗になって、今は10店舗で取り扱ってもらえるようになっていきます。1個ちょうだいというのが関東の方々は1個じゃなくて1箱ですね。

買い方が全然違います。「紅まどんな」でいうと千疋屋さんという果物の専門店では大きいものになりますと1個2,000円ぐらいします。「せとか」が1個1,000円ぐらいですかね。本当に買い方も違うなと思うんですけども、その「紅まどんな」は最初、集中プロモーションで30万円の売り上げだったのが、430万円まで広がってきていますので、今、松山のものは大部扱ってもらえるようになっていっていますので、引き続きやっていきたいと思っています。

【男性】 前回、空き家の屋根瓦の落下懸念ということから意見を述べさせてもらった者でございますけれども、早速、担当課に対応をしていただきまして、間もなく所有者の方が現れまして、いろいろと心配をかけたことに対する非を詫びた中で善後策を対応しますということで、私は屋根瓦を修復するのかなと思っておりまして、離れの建物ごと撤去していただいてすっきりいたしました。顔見知りゆえ相対では言いづらかったことが行政の方の協力によって、いとも簡単に自分が思っていた以上に短期間で解決することができましたこと改めてお礼申し上げます。もう1点でございますけれども、私のところの上の高台の屋敷の方は、70年以上前に旧松山市内へ転出されました。その後、地域の方が建物ごと借りて住まわれておりましたけれども、度重なる石垣の崩れ等々で宅地を変更され、その後は果樹園にしておりましたけれども、子どもさんも農業を継がないということで、その後は荒れるがままで、隣地の方2人で何とか草刈りをしておるわけでございますが、たまたま子孫のお墓が地区内にありますので、お彼岸とかお盆の機会に墓地に2人で待機をしておりまして、子孫の1人と会うことができまして、現地へ案内した中で現状を見ていただいて、何とか善後策を講じてほしいとお願いしたわけですが、すでに初代の転出された方は亡くなられ、息子さんも大勢おいでる中、半分以上は亡くなられ孫の世代になっておる中においては、物件を相続したのは誰かわからないし、例えその相続者をつきとめても孫の代でこの土地まで来て維持管理することはおぼつかないということですが、その石垣というのがひな壇の3段構造で約7メートルぐらいあるのが1面、それと下からずっと1段構造の石垣ですが、3段構造の石垣がかれこれガタがきておりますので、大雨やいずれ想定される大地震においてそれが崩落した場合、私の下のところにも民家があります。第1原因によって私のところの畑の石垣も崩れて、民家に被害を及ぼす恐れもありますので大変心配をしておるわけですが、万が一災害が発生した場合、行政の救済措置はどのような内容までされておるのか。また、このような事例が広い市内にもいくつあろうかと思っておりますけれども、上手な方法によって解決できた

事例があればお聞かせ願いたいと思います。

【市長】 3段構造の石垣という下の方は心配されると思いますけれども、これはどうでしょうか。

【下水道政策課長】 下水道政策課の高市と申します。ご意見ありがとうございます。がけですけれども、松山市では愛媛県からの補助金をいただいて、がけ崩れの防災対策事業でがけの工事をしてしておりますが、これにはいろいろと条件がございます。まず第1に自然がけであることとか、高さ5メートル以上あるとか、人家が1戸以上ある生活している家屋がそこにあるということもございますので、今聞いた限りでは石積みを築いているということですので条件にはちょっと厳しいかと思っておりますけれども、詳しい場所を教えていただいて調査することは可能と思っておりますので、また教えていただいたらと思います。

【市長】 私から補足をさせていただきます。今日の冒頭で空き家のことについて述べさせていただいたんですが、空き家対策の難しいところは、空き家はそれぞれ個人の持ち物です。皆さんお困りなので行政が何とかしてよというお話があるんですけども、基本的には個人のもは個人で直してもらわないといけないです。例えばAさんという方の家が壊れてしまった。市役所直してよといったら筋が違うお話になりますよね。まずはAさんが直してもらわないといけないことになります。でも、放っておいてしまうと空き家対策は一切進まないことになってしまうので、先ほどの石垣も個人がつくられたものだったら個人が対応すべきですけれども、それだと全くの放ったらかしになって危ないということであれば話は別です。松山市では関係課が集まって条例化ができないか、国でいうと法律、県や市でつくるとなると条例になるんですけども、例えば指導ができないか監督ができないか命令ができないかという条例をつくるべく今動いているところがございます。まずは条例ができるまで何もしないのではなくて、心配なところがありましたら市役所に言っていただいたら、こちらから現場を見に行くこともでき、また所有者の方にお伝えすることもできますので遠慮なく言っていただいたらと思います。

【男性】 庄地区に在住しております。先ほどの防災について、引き続きお願いしたらと思います。土砂災害対策についてですけれども、皆さんご存知のとおり昨年の7月に松山地方気象台の観測上2番目という大きな集中ゲリラ豪雨によりまして北条地区が冠水、浸水しております。このような中で庄地区ではがけ地対策としまして、県事業の急傾斜地崩壊対策事業でのり面工事がされておるわけですけれども、採択基準の10戸以上の連担地域、危険箇所間が50メートル以内の条件に満たないために危険箇

所ながら取り残されております。それで対応といたしまして、先ほど一部ご説明がございましたが、崩れ防災対策事業への申請を検討させていただいておる最中ではございますが、松山市におかれましては平成19年度からは受益者負担が必要となっております。そこで厳しい財政下は理解できますので従来の無料化に戻してくれというのは無理でしょうから、5パーセントの負担率を所得に比例したスライド方式に改正をお願いしたいと思います。そうすればかなり申請がしやすくなるかと思っておりますので、検討方よろしくお願いいたします。

【下水道政策課長】 はい、ありがとうございます。現在は5パーセントですので、またこれについても研究させていただきたいと思っております。ありがとうございます。

【男性】 失礼します。前回の下水道の問題について納得したようで理解ができないんですが、この前の席上ではしばらくの間は下水道は庄に入っていないという説明を受けたわけですが、前回の意見対応表を見てみますと未定という形で「その他」という黒塗りで私のところに届いたわけなんです。未定ということは庄までは下水道はこないということですね。そして来ないならば来ないでいいんですけれども、上難波にある農林水産研究所まではくるのか。それと都市計画法に基づく都市計画で線引きをしてやめるのかが納得できないのと、もう1点は下水道が来なくて合併浄化槽にするならば、松山市から「合併浄化槽はこうですよ、こういう補助金がありますよ」という説明にきていただいて、住民の方に納得してもらうのが常識でないのかと。業者から業者、業者から住民に伝わって、それが次々とできていっておる形で、補助事業の中で全部100パーセントの補助金はこれしかないと思うんですよ。雑排水と雨水を取り込んで合併浄化槽にするという形を今やっていただいて、非常に助かっておるのは助かっているんですが、10年向こうに下水道が入ったおりに、それ条件でつながないといけないものなのか、今の合併浄化槽をそのまま放置しておけばいいのかがわからずにやっているということがございますので、教えていただけたらと思います。

【下水道政策課長】 ありがとうございます。下水道のお話でございますが、まず整備区域ですけれども庄の住宅のある区域は下水道の区域には入ってございます。ただ、前回も申しましたけれども下流からきておりますから、まだ庄の区域に行くには時間がかかるという話でございます。下水道整備に時間がかかるころについては、言っていただきました環境部で補助金を出すのがございます。下水はつながなくてもいいのかという話もあったんですけれども、下水が整備されたときには皆さんそこにつないでい

ただ、それがないと補助金を出さないという取り決めをしているわけではございません。下水が整備されたらつないでいただいて、川や海がきれいになるのでご協力をしていただくことでございますので、それが条件みたいなことではございませんけれども、長くなるようでしたら補助金の制度もございまして、先ほど言われていました説明が足りないということでございましたら、環境部とも相談しまして啓発をもっと進めていきたいと思っております。どうもありがとうございます。

【市長】 私から財政的な問題をお話させていただいたほうがよさそうですね。皆さんもニュースなどで聞かれたことがあると思いますが、国自体が1千兆円の借金を抱えているのは皆さんも聞かれたことがあると思います。お子さんもいらっしゃるので、できるだけわかりやすく話をしようと思っておりますが、私も3年半前に市長の立場をいただいて松山市の財政を見せていただきましたけれども、北海道夕張市がいわゆる経営破たんをしましたが、松山市の財政は北海道の夕張市のように経営破たんをするのではないと思っております。しっかりと見極めながら進めていますので、中四国の中では非常に健全財政だと思います。そういう松山ですけれども、国と地方がありますが、国自体が1千兆円の大きい借金を抱えているわけです。地方に地方税交付金とか国庫支出金という形で地方にお金がまわってくるんです。例えば大学生になって県外の大学に行ったら、実家からお金を送ってもらうんですけれども、仕送りと一緒にです。国自体が大きな借金を抱えているので、これから地方にまわってくるお金が増えるとはとても考えにくいんです。そして今、少子高齢化、子どもの数が少ないのと高齢化していることがあります。私もいずれ高齢化していきますけれども、高齢化してくるとどうしても体が悪くなる。どんどん健康になるかというところではなくてどっちかというところは悪くなるんですね。そうすると病院にかかる、けがをすることも増えてくる。どちらかというとお金がかかるようになるわけです。少子という、子どもが少なくなるわけです。誰しもそうだと思うんですけれども、税金払いたくてたまらない人はまずいないと思っております。でも、税金は我々公が仕事をさせていただくときにはエネルギーになるものです。税金をいただかないとやっぱり何でもお金がかかるわけですから、お金がないと何にもできないわけになってしまいます。例えばごみ収集があると思っておりますが、ごみを集めようと思ったらごみを集める人が要ります。ごみを集める車が要ります。ごみは一般的に燃やしますからごみ焼却施設が必要です。ごみ焼却施設をつくらうと思ったら大きな建設費用がかかります。でも松山市は全国で7年連続、50万以上の都市でごみの量が最少です。7年連続で最少を記録してくださっています。

皆さんのご努力のおかげですけれども、ごみの量が少なかったらごみを集める人の数が少なくて済みます。ごみ収集車の数も少なくて済みます。ごみ焼却施設も長持ちするわけです。義務的経費っていいですけども、そういうどうしても必要なお金を削ることができるんです。お財布は一緒の中でやらないといけません。どうしても使わないといけません。義務的経費を減らすことができたなら、政策的な経費にあてることが自由にできます。なので、ごみの減量してくださいと皆さんにお願いしています。2番が迫ってきています。今、1円玉2枚分の差しかなくなっているの、皆さんにはごみの水切りをすとか、できるだけリサイクルに回すとかしていただきたいんですけども、本当に限られたお財布の中で、教育にしても道路のことにしても下水道のことにしても上水道のことにしても、さまざまやっていかないといけません。どこの地方自治体でも現状です。限られたお財布の中でやっていかないといけません。子どもの数が少なくなるわけですから、これから働いて税金を納めてくれる人の数は少なくなるんです。どちらかというとお金を必要とする人の数が増えていくんです。ですから何が必要なのか、いつ必要なのかをしっかりと見極めながらやっていかないといけません。私もこうやってタウンミーティングさせていただいています。皆さんから、「市長こういうことやってや。ああいうことやってや。そういうことやってや。」という要望をいただくんですが、私も人間なんで、「はい、わかりました。それやりましょう。これやりましょう。あれやりましょう。」と言えらるほうが市長の人気取りのことから考えたら楽です。でも、それをやってしまうと誰がお金を払うのかという我々の後の世代です。公が何かモノをつくった場合はやがて30年、40年すると老朽化していきます。放ったらかしはできません。維持管理しないといけません。その費用は誰が払うのかといったら後の世代が払うんです。高度経済成長の時代だったら幅広い道路をどんどん郊外に伸ばしていこう、下水道をどんどん郊外に伸ばしていきましょうということができたんです。人の数も増えていく、日本の経済もよくなる。でも、そういう時代ではなくなったので、何が必要なのかをしっかりと見極めないといけません。皆さんが今何を必要とされているのか、後手に回らないために今何をすべきなのかということのためにこういったタウンミーティングをさせていただいているわけです。下水道の話に戻りますと、昔は松山市はもっと大きな計画を立てていました、平成5年の今から21年前には、1年間に160億円を使って平成32年度までに下水道の普及率を松山市全体で96パーセント、下水道が完備されるようにしようという大きい計画を立てていたんです。でも、全体的に財政が厳しくなって、国自

体財政が厳しくなっているので、平成12年にこの計画を見直しました。もう半分にしよう。1年に80億円出して整備していこう。それでも苦しい。平成19年にはこの80億円を65億円まで縮小して下水道を広げる計画にしました。それにしても1年間に65億円は使って下水道は整備している形になります。今、私が住んでいるところも合併処理浄化槽です。公共下水道と合併処理浄化槽の2本立てでやらざるを得ないかなと思っております。ですけれども皆さまのご要望で公共下水道を早く整備してほしいという声はよくわかります。広聴と広報を大事にしましょうと市役所の中で言っているのですが、「広聴」は広く聴くと書きますが、皆さんの声に耳を傾けることと、「広報」は皆さんにわかっていること。この2つに力を入れていかなければいけないと思っていますので、また皆さんのご理解よろしくお願いいたします。このことを言うと手が挙がりにくくなったりするんですけども、皆さんのご意見をいただくほうがいい市政ができますので、あんまりお金のことは気にしないで遠慮なく言ってください。

【男性】 現在進行中の件ですけれども、デジタル防災無線について簡単に説明いたします。現在、旧北条はこの秋ぐらいの使用に向けて検討が進んでいるんですけど、当初僕らが説明を受けたのはマイク設備を屋内に引き込むと、つい最近よく確認してみたらそれは電柱の拡声器しか声が出ないということがわかりました。これは全く意味をなさないです。大体、マイク放送といえは地区内のすべての拡声器を一斉に鳴らしたいじゃないですか。松山市もブロックごとに分かれて防災無線はそうしているでしょ。そしたら旧北条地区でいくら予算をとっているのか知りませんが全く無意味ですよ。まだそれやったら、各電柱の下に雨よけの庇でもつくってくれたほうがはるかにありがたいです。平常時は電話予約できますよね。それでもいいんです。だけど僕が心配しているのは非常時は電話予約しようと思ってもまず回線通じないでしょ。そうしたら100パーセント電柱のところに走って行って叫ぶしか地元の方にお知らせする方法がない。まだ検討の余地があるのであれば検討していただきたい。じゃないともったいない。引き込んでも意味がない。たぶん1カ所の工賃も20万ぐらいかかると思うんです。全北条からみたらそこそこのお金になると思いますけど全くの無駄金になると思います。

【市長】 デジタル防災行政無線がどういうものかご説明して、そうなるのかどうか。

【消防局総務課長】 消防局総務課長の中矢でございます。ご質問ありがとうございます。デジタル防災行政無線ですけれども、旧松山市・旧北条

市全域で整備をしております。北条地区は80カ所を整備する予定にしております。この難波地区は9カ所を整備する予定で、秋くらいを目途に運用を開始する予定になっております。このデジタル防災行政無線の特徴は、避難所となる集会所と災害対策本部との通話ができるという双方向通信の特性がありデータ等を送信できます。それとデジタル化することによって音質が非常にきれいになりますので、その到達範囲も広がるようになります。それがデジタル化の特徴でございます。先ほどご意見いただきました一斉放送の件でございますけれども、災害時にまず何を優先するかというと災害対策本部からの緊急放送が最優先されますので、災害対策本部からの放送が一斉で全域に入るようになります。平常時は先ほどおっしゃられましたように地区遠隔装置というのを今回新たに整備するようしております。この地区遠隔装置はどういうものかといいますと、難波地区9カ所の防災行政無線があるんですけれども、その9カ所の防災行政無線を町内会長さんとか自主防災の会長さんにIDとパスワードを付与することによって、自宅の電話から難波地区9カ所の防災行政無線を鳴らすことができるシステムでございます。それと今回新たにデジタル防災行政無線で付加したものとしてテレフォンガイドによる、今まででしたら放送しっぱなしだったんですけれども、何か放送しだしたなと思ったら、防災マップを新たに今作成して電話番号も掲載するようしておりますので、その電話番号にかけていただいたら放送内容がわかる仕組みをとっております。このように色々なシステムを整備しているんですけれども、今の災害時の一斉放送を地区内でできないかということも持ち帰りまして、危機管理担当部で相談させていただきますけれども、まずは災害時には災害対策本部からの一斉放送が優先されることをご理解いただけたらと思います。

【男性】 そんなん知っているんですよ。専門だからおわかりだと思いますが、地域である程度の体制が立ち上がるといったらそここの時間がかかるわけです。東京からとんできた第1報をそのまま流すんですよ。そんな時間ではまだ地元は何の体制もできておりません。ある程度どこで1番大きなことが起こったかということは地域全体の方が共有しないといけないじゃないですか。その段階になって初めて地域全体にどこでこういうことが起きていますよということが、いろいろな地域の放送が始まるんです。そんなのを車は当然使えんと思っているので区長が別のところに行って叫び、また走って行って別のところに行ってまたマイクで叫び、4つくらいから叫ぶだけじゃどうもこうもならないですよ。緊急時の対応には全くならん。北条は特に有線放送と一緒にあったでしょ、最初のシステム設計が間違えているんですよ。

【市長】 私が聞くとところは今の話だと誰でもやったらいけないから、区長さんたちにお伝えすることによって区長さんが1カ所からしゃべれば難波地区でいうと9カ所全部に音声が行くということですか。そういうことですよ。災害時にできるためのものがデジタル防災行政無線ですよ。

【男性】 市長、緊急時には回線なんか通じませんか。そうでしょ。通じますか？

【消防局総務課長】 電話回線が途絶した場合はそういう方法がとれないようになるかもしれませんが、電話回線が途絶するような災害の放送については、すべて一括で危機管理担当部で制御するようになります。

【男性】 携帯とか通じますか？

【消防局総務課長】 携帯がつながった場合は大丈夫です。

【男性】 100パーセントつながると言えますか？

【消防局総務課長】 専用線の問題も含めまして危機管理担当部と協議させていただいたらと思うんですけども、今、防災行政無線に関しまして、危機管理担当部でそれぞれの地区に説明にお伺いしていると思うんですけども、難波地区はもう説明には来られましたでしょうか。

【男性】 先日来たときに質問していたらそういうことがわかった。ほかの区長さんはたぶん知らないと思いますよ。

【市長】 すみません、残り時間のこともありますので終わりましたら個々でやっていただいたらと思います。すみません。

【女性】 すみません、子どもの代弁です。すごく子どもが鹿島が大好きで、年に1度の花火大会の鹿島で見る花火は最高ですけど、子どもの願いとしては風和里から鹿島に行く遊覧船でもあれば、もっと多くの方に鹿島を知ってもらえるんじゃないかという希望がありました。

【市長】 ありがとうございます。実は検討しました。風和里の前ぐらいから鹿島に周遊船が出せればと思って検討したんですが、難しい。実は遊覧船を接岸する場所の問題があって、航路を再開しようと思ったら浮棧橋をつくらないといけないんです。船を新たにつくる必要ができてきました。そして新たに船員を配置するとか、それをすぐにやめちゃったらいけないので、そういったランニングコストを考えるとちょっと費用が大きくなりすぎる。市長も同じこと考えたんです。それと新たに航路を引っ張るとなると、許可があるのでその辺でちょっと難しいということが出てきました。でも実は北条の人から運動会の際にいいご意見をいただいたんですが、周遊船はこれまでも20分の鹿島遊覧船があったんですけども、「市長さん、あの遊覧船は夕日のときが相当きれいです。サンセットクルーズをやったらどうかな。」と言われて、これはいいアイデアだということで早

速検討させていただいて、2年前の7月からスタートしています。風和里から鹿島はちょっと難しかったんですけども、去年は鹿島から勝岡のところにある白石の鼻を回ってきて帰ってくる新しい試みもしてみました。ですから周遊船ってものすごく楽しみで、これからも期待できるものだと思います。鹿島は水晶ヶ浜とか石門というんですかね、どちらかというところのほうにきれいな景色があります。就任してからも皆さんが安心して歩いて鹿島を回ることができたらなと思ってさまざま検討しているんですけども、昔に比べると鹿島はものすごく土の風化が進みまして崩れやすいんです。しばらく崩れてないから大丈夫じゃないかなと思っていたんですけど、去年の6月に実はコンクリートで固めているところの上が崩れて鹿が死んでしまったという例がありました。本当に安全性を高めようと思ったならコンクリートで固めてしまうと安全性は高まるんでしょうけれども、それをやったら鹿島のよさが逆になくなってしまうと思うので、今は固めるのはしていない。だからこそ周遊船を活用している。鹿島の前のところは特に車も来ませんから子どもたちが安全に遊べる場所なので、できるだけの整備をさせていただいているところです。そういう現状ですけれども、いいご意見ありがとうございました。すみません。

【男性】 私、個人的に市役所によく行くわけですが、職員の方々と協議を終えた後に担当職員の確認をするために名札の写真とお名前を拝見させていただくことにしているわけですけども、公務上の協議でございまずので固い話が多いわけですが、固い写真の表情を見ますと、主観ではありますが、より固くなりますので、野志市長さんのごとく明るい笑顔の写真にさせていただいたらなじみやすくなるのかなと思った次第でございまず。これは新たな経費はかかりませんのでいかがでしょうか。

【市長】 これも実は検討したんですよ。今、松山市の市役所職員は名札をつけておりますが、以前は名前だけの名札だったんですけども、やはり顔が見える行政のほうがいいだろうということで、写真を入れることにしました。市役所本庁に来ていただいたら、全員の職員の顔写真を出すわけにいかないの、しっかりと責任をもって仕事をしてもらうということで、私、副市長、また部長たちの顔写真を出しております。責任をもって松山市のために働きますと顔写真宣言をさせていただいているんですけど、実はこの顔写真も締まった顔と笑顔の写真とどちらにするかと、笑顔の写真もいいんじゃないかと言ったんですけども、市役所って中には辛いケースにどうしても立ち会わなきゃいけないケースもありますし、部署もあるんです。そういうことも考えると写真は普通の表情にして、できるだけ窓口では笑顔でできるケースはいよいよということにさせていただいて、ここ

のつけている写真は普通の写真になりました。できたら笑顔の写真にしたかったんですけど、そういう経緯でございます。今日も長時間にわたってましてありがとうございます。各地区に行かせていただいて、これはほかの質問をしてはいけませんよということじゃないんですけども、どうい質問をしてみたいですかというのを聞かせていただいております。難波は前回もそうだったんですけど、結構、皆さんおとなしいです。ほかの北条の地区でも感じたことがあるんですが、正岡の方とか難波の方はおとなしいという印象を今回も抱きました。遠慮なくご意見を言っていて構わないんですけども、私が申し上げたいのは、どうぞ敷居を高くなくならないようにしていただきたいと思います。どうせ市役所に言っても変わらないとか思われなくて、市役所に言っていたら、「いや、こういう方法はできないですけども、こういう方法だったらできますよ」とか、「いや、こういう事例がありまして、ほかの地区ではこういうことができます」とかお伝えすることもできますので、どうぞ市役所に対して敷居を高くなくせずに、敷居を低くして遠慮なくご相談をいただけたらと思います。また、そういうことのないように心がけているんですけども、もし対応がまずいところがありましたら遠慮なく言っていたらと思います。市役所は3つの漢字ですけども、これは市民の皆さんの役に立つ所で市役所じゃなきゃいけないと思っていますので、私は皆さんご存知のように、一市民の立場からこの立場をいただいた人間です。行政と皆さんとの距離を近くしたい、政治と皆さんとの距離を近くしたいと思っていますので、やはり皆さんと距離ができてしまうことがよくないことだと思っていますので、遠慮なく言っていたらと思います。今日も長時間まことにありがとうございます。

— 了 —